

# 江戸ソバリエ俱楽部会員の皆様 「落語で学ぶお茶と蕎麦のミステリ」

江戸ソバリエ 7期 日本茶アンバサダー第1期 宮本 学様からのお知らせです



江戸ソバリエ協会と日本茶アンバサダー協会の協賛で開催される柳家権之助師匠の落語会とその後のトークショーを楽しみ、全世界に知れ渡っている名門ホテルレストランで美味しいお料理を召し上がりながら是非、先人の知恵を学んでください。

日時: 11月11日(土) 17時00分開場 17時30分開演

場所: レストラン 1899 お茶の水(ホテル龍名館御茶ノ水本店)

(JR 御茶ノ水聖橋口から徒歩3分)

参加費: 8千円

落語「茶の湯」他 1席 柳家権之助師匠

日本茶アンバサダー協会 代表理事 満木葉子氏トーク

江戸ソバリエ協会 理事長 ほしひかる氏 特別講演

『お茶のホテル』として全世界的に有名なレストランの食事付

既にお申込み済の皆さまには後ほど、ご案内しますので10月末迄にご案内の口座にお振込みをお願いします。

お申込みでない方も、まだ若干お席があります。先着順でお申込みをお受けします。

柳家権助応援団長、江戸ソバリエ7期

日本茶アンバサダー第1期 宮本 学

円爾(えんに)

鎌倉時代中期に静岡県で生まれた(1202年11月1日)円爾。『聖一国師(しょういちこくし)』と尊敬されています。国師というのは天皇の先生。代々の天皇は現在に至るまで円爾を敬っています。

この高僧は、中国(宋)から臨済宗を日本に伝え、京都の東福寺を開いたお坊さんです。何よりも、私たちの生活に欠かすことが出来ない蕎麦や小麦粉、お茶を挽く『回転式石臼(いしうす)』を日本に伝えた偉大な人物。

それまでの日本は米作が中心。石臼の必要性はありませんでした。円爾が石臼を中国から持つて来て以来、日本の食文化は革命的に変化しました。